

2010年6月11日

各団委員長・団委員 様
各隊指導者 様

阪神さくら地区
スカウト委員長 平郡英貴

救急箱の取り扱いについて

三指

いつもスカウト運動にご尽力賜りまして誠にありがとうございます。
日頃より、活動面での安全対策を徹底されていると思われま
夏の活動が活発になされる中、団：隊の救急箱への整備をなされると思われま
す。

阪神さくら地区として、標記の件にて連絡いたします。

【基本的な考え方として、救急箱は実際に使う時に何が必要かを考える事】

- ・ 内服薬は原則投与しない。医療従事者以外が薬物（市販の風邪薬、正露丸、頭痛薬などであっても）を投与して副作用などが起こると重篤な事態に陥り症状悪化させる事になります。また、場合によっては提訴問題にもつながります。個人の持参薬以外で必要な場合は医療機関にて処方してもらうのが大原則。したがって内服薬は救急箱には不要（準備しない方がよい）
- ・ 傷の消毒は基本的に効果無し。洗浄が基本です。救急箱にペットボトルの水を用意すると良い。（未開封のもの。）
- ・ レジャーマット、新聞紙は患者の安静を保つのに救急箱に常備しておくとう功。他との兼用だと必要なときに使えない可能性あり
- ・ ペンライトなども救急箱に入っているとすぐ使えます。（夜間対策）
- ・ 三角巾や包帯・ガーゼなどの使用したものは処分する。洗濯などして、使い回しをしない事。
- ・ 必ず使用前の状態にもどす事を習慣つける。（消費期限を注意すること）
- ・ 救急箱は、適用人数に合わせて揃えること。